県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻160号　平成26年（2014）8月20日　Vol.45 No.2

第1章
発酵と微生物
第2章
青森県の発酵食品
第3章
暮らしの中の発酵
第4章
発酵食品への取り組み

※ 9/6(土)及び9/20(土)
12:00～15:30
エントランスホールで、五所川原農林高校食品科学科が開発に係わった「みそドーナツ」・「酢チューベンドリンク酢」の販売を同校生徒が行います。商品がなくなりしだい販売を終了しますので、お早めにお買い求めください。

私たちが日常的に口にする食品の多くは、目にみえないミクロの生物（微生物）を利用して作られた発酵食品であることをご存じでしょうか。発酵食品は、有史以前から食べられてきた長い歴史を持ち、先人が食材と微生物を用いて創意工夫を重ねながら作ってきました。その中には、保存食や伝統的な郷土料理になっているものもあります。日本の伝統的食文化である「和食」はその価値を認められ、平成25年に世界無形文化遺産に登録されましたが、この「和食」にも発酵食品が多く含まれています。

本展示会では、これまで風土に即して培われてきた発酵技術や伝統的な食文化を、本県ゆかりの発酵食品を中心に紹介します。特に酒、味噌、醤油、納豆、漬物、パンについて大きく取り上げ、それぞれの歴史や製造方法等を紹介するほか、製造に携わっている方々による講演・実演会も開催します。このほかにも、発酵によって微生物が食材をおいしくする不思議や、身近にあるさまざまな発酵技術の利用についても紹介します。

本展示会をご覧いただき、身近な発酵食品や発酵技術の利用について理解を深めていただきたいと思います。

（島口　天）

●期間　9月3日(水)～10月19日(日)　47日間
●場所　1階特別展示室(大ホール)
●時間　9：00～18：00
●観覧料　一般　500円(400円)
高校・大学　240円(200円)
中学生以下無料、障がいのある方は免除。
※(　)内は20名以上の団体料金及び前売券の料金。
※こちらの金額で常設展も観覧できます。

特別展注目資料1

「現存する日本で最古の飲料自動販売機」

岩手県二戸市の二戸歴史民俗資料館から借用して展示する「酒の自動販売機」は、現存する日本で最古の飲料販売機として、平成21年（2009）に重要科学技術史資料（未来技術遺産）の第24号に登録されたものです。昭和62年（1987）に、地元の造り酒屋「久慈酒造」明治35年〈1902〉創業・現「南部美人」）の増改築中の酒蔵でみつかりました。

外形は、高さ124cm、幅45cm、奥行45cmの箱型、木製で茶色に塗られています。正面に「五銭白銅入口」・「酒出口」・「ゆすぎ水出口」と書かれた陶器製の表示が3つ付いており、それぞれの下には銅貨の投入口や蛇口が付いています。五銭白銅貨を入れるとゼンマイ仕掛けが動き出し、酒タンクと蛇口を結ぶチューブを挟んでいた金具が一定時間（35秒間）緩み、一合分のお酒が蛇口から出てくる仕組みになっています。おそらく茶碗などの器が備え付けられていて、「ゆすぎ水出口」から出る水で器をゆすいだ後、「酒出口」から出る酒をつぎ、その場で飲んでいたものと考えられます。

この販売機が製造された年代は、銅貨などから明治22年（1889）以降であると推定されます。対面販売が当たり前だった時代に、自動販売機による無人販売という新しい文化を持ち込んだという意味で、これを店に置いたことは画期的な出来事でした。

（島口　天）

日本最古の酒の自動販売機
（二戸歴史民俗博物館蔵）

特別展注目資料2

「江戸時代の醤油看板」

カネショウ株式会社尾上工場の玄関ロビーには、「溜醤油」と書かれた大きな木製の看板が掛けられています。この右下には、看板の由来が次のように書かれています。

> 津軽藩御用商人
> 大津屋九左衛門
> （現在）弘前市本町
> 溜醤油醸造元
> 　元禄年間（西暦1701年頃）に江戸の看板職人に注文して作らせたものである。文字の下書は大髙源吾が書いたものといわれている。裏は草書にて店の軒につるして両面を見せたものである。

大髙源吾は赤穂四十七士のひとりで、元禄15年（1702）の元禄赤穂事件にかかわり、この翌年に切腹しました。俳人としても知られた人物ですので、字も上手かったのでしょう。

大津屋九左衛門に関しては、大津屋九左衛門という問屋または商店が安政年間に弘前にあったことが確認できましたが、看板が作られたという元禄年間のことは確認できていません。

溜醤油は、今は東海地域を中心につくられていますが、元々は豆味噌をつくっている過程でうまれたとも言われています。よって、江戸時代の青森県でつくられていた醤油は、溜醤油である可能性が最も高く、この看板がそれを裏付けているのかもしれません。

（島口　天）

江戸時代の醤油看板（カネショウ株式会社蔵）

夏休みこどものくに

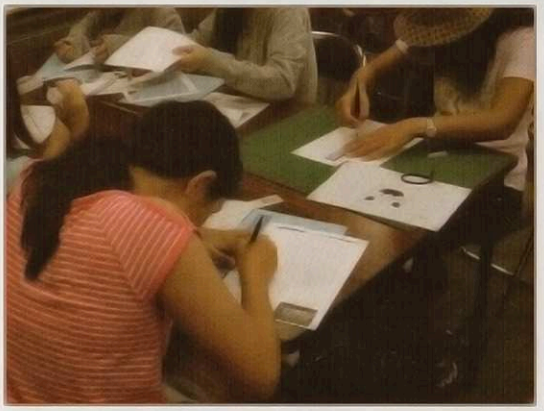
平成26年度の「夏休み子どものくに」は7月27日（日）及び8月3日（日）に開催されました。

7月27日（日）は、「君も化石博士！かっこいい化石レプリカを作ろう」でした。本物の化石を利用し、湯熱軟化性プラスチックを使って化石の型を取ります。そして、取った型に石膏を流し込みます。石膏が固まるまでには時間があるので、その時間を利用して当館の島口主任学芸主査に化石のお話をしてもらいました。石膏が固まったら色付けです。茶色と黒を塗っていきます。茶色はコーヒー、黒は薄めた墨汁を使用しています。参加者は基本的に子どもですが、一緒に参加した保護者や手伝った保護者も楽しみながら真剣に色を塗っていました。

8月3日（日）は「立体折り紙を作ろう！」でした。これは、厚紙にカッターで切り込みを入れ、山折りと谷折りを駆使して立体に折っていくものです。指を切らないように、切りすぎないように皆さん真剣に取り組んでいました。

参加者からは「思ったよりも本物みたいでびっくりした」「本物の化石に触れることができてよかった」「難しかったけど達成感があった」等の感想があがっていました。

（豊田　雅彦）



写真上：7月27日「君も化石博士！かっこいい化石レプリカを作ろう」
本物と見比べながら色塗りをする参加者
写真下：8月 3日「立体折り紙を作ろう！」
カッターで厚紙に切り込みを入れる参加者

奈良岡正夫作品展示

6月18日から常設展3階の先人コーナーに奈良岡正夫が描いた「山羊」「岩木山」「龍飛崎」など彼を代表するテーマの油彩画５点を展示しています。この作品は、奈良岡正夫のご長男である奈良岡正博氏より、今年5月に当館が寄贈を受けたものです。

奈良岡正夫は、明治36年青森県弘前市に生まれました。画家を志し大正14年に上京。昭和16年に白日会展、18年には二科展、独立展など、19年には文展に入選しました。戦後は日展を中心に作品を発表し、特選、無鑑査を経て38年に会員、54年には日展参与となるなど画家としてめざましい活躍をされ、40年には青森県褒賞を受賞しています。

正博氏は「今年は父の没後10年目にあたる。父は、生まれ育った青森が大好きで、郷里への愛着は生涯薄れることがなかった。そんな父の作品を多くの人に観てもらいたい。」と話されていました。

（對馬　恵美子）

「岩木山」F6号

「山羊親子」F8号

7月9日 教育長来館

クルーズ船の乗客に郷土館をＰＲ

近年、青森市にある新中央埠頭、沖館埠頭に日本や海外を周遊しているクルーズ船が寄港しています。今年度は、4月17日を皮切りに「ぱしふぃっくびいなす」や「ダイヤモンドプリンセス」などを中心に様々なクルーズ船が20回入港の予定です。乗客は出港する時間まで思い思いの場所を観光します。

そのような方々に向けて、青森県唯一の総合博物館として青森県のことを多くの観光客の方に知ってもらおうと、6月27日に沖館埠頭へ出向き、ダイヤモンド・プリンセス乗客の方へリーフレットと手作り案内板でPRしてきました。当日の乗客は、日本人が4割、外国人の方が6割ぐらいの印象を受けましたが、興味のある方は足を止め、当館の場所など熱心に確認していました。まだまだ英語での案内は難しいですが、今後も郷土館と青森県のPRのため、このような地道な活動を続けていきたいと思います。　（倉光　伸）

沖館埠頭で外国人の方へ郷土館の場所を案内する様子

土曜セミナー後期日程(１０月～２月)

郷土の歴史・文化・自然などについて当館の職員やゲストキュレーターがわかりやすくお話しますので、どうぞお気軽にご参加下さい。

【日　時】　毎週土曜日　13:30～15:00
【場　所】　郷土館1階小ホール
【料　金】　無料

10月 4日	特別展「発酵食品パワー」連続講座Ⅴ アミノ酸発酵技術について
10月11日	「乙女の像」をめぐる人々 （十和田湖の国立公園指定80周年に思う）
10月18日	津軽における寺社参り
10月25日	パン食文化と青森県
11月 1日	日本戦後の文化と美術
11月 8日	沖館川多目的遊水地の植物的自然
11月15日	古い道具と昔の暮らし（2）
11月22日	縄文時代の水場と貯蔵穴
11月29日	仏像の種類と見方
12月 6日	「県都」青森の誕生と拡大する都市空間
12月13日	写真で見る稲作の変遷
12月20日	クワガタムシの研究
1月17日	古文書学のおもしろさ
1月24日	戦前の郷土史について
1月31日	青森県産出の新第三紀哺乳類化石
2月 7日	博物学の面白い話（2）　カニムシの不思議
2月14日	土器を読む（2）
2月21日	北海道へのニシン漁出稼ぎ～ヤン衆物語
2月28日	古い道具と昔の暮らし（2）

26年度の展示会・イベント情報

◆TTHAグループ主催「～小さな夢の世界・ミニチュアハウスへようこそ～ドールハウス展 in 青森」 7/12(土)～8/24(日)
◆特別展「発酵食品パワー　～ミクロのシェフとあおもり食文化～」 9/3(水)～10/19(日)
◆TTHAグループ主催「第82回 東奥児童美術展」 10/24(金)～11/3(月 祝)
◆東北博物館の日による無料開放日　10/25(土)～26(日)
◆「秋の自然観察会」 10/5(日)※事前申し込みが必要
◆「あおもり街かど探偵団」 9/27(土) 10/4(土) ※事前申し込みが必要
◆「土曜セミナー」 毎週土曜日13:30～15:00(3月まで) ※無料
◆「解説案内」 毎週日曜、祝日　14:00～常設展を案内
※「第82回 東奥児童美術展」終了後より、1階大ホールの工事のため常設展示室のみの観覧となります。工事期間等につきましては直接お問合せ下さい。

総合博物館　青森県立郷土館だより　Vol.45　No.2　通巻160号　2014.8.20
【編集・発行】青森県立郷土館／TTHAグループ　【TEL】017-777-1585
〒030-0802　青森市本町二丁目8－14　【FAX】017-777-1588